

# 直売所来店200万人突破

「JAいがふるさと」とれたて市ひそっこ」

【いがふるさと】伊賀市にあるJAいがふるさとの直売所「とれたて市ひそっこ」は12日、来店客数が200万人を突破した。200万人目となったのは、同市在住の武内まつみさん(40)と眞龍ちゃん(6カ月)親子で、同JAの北川俊一組合長から記念品の「伊賀米コシヒカリ(特別栽培米)」30kg、やひそっこで使用できる商品券1万円分、同JAオリジナル商品詰りめ合わせが贈られた。

伊賀米を受け取り武内さんは「びっくりしているがうれしい。離乳食が始まったのでい

ただいたお米を使いた。また、おいしいお米で育つのはいい」と笑顔を見せた。北川組合長は「多くの方に利用してもらい、200万人を達成できた。これからも安心して地元のものを提供し、食を通じて地域活性化につなげてい」と話した。また、同直売所の前、英史店長は「日頃たくさんのお客さまにこ

ひそっこ」は2015年12月にオープン。18年3月には利用者50万

人、20年4月には100万人を突破した。直売所の出荷者協議会に登録している出荷者会



12日、同JA本店、すく女性大学の第講座「干支(えと)押絵教室」を開き、講師24人が参加し、教室は来年の干支「辰(たつ)」表現するため龍のなようにパーツり分けて和紙で包色紙を貼り合わせさせた。また、各の女性部支部長ら指導役としてし、作り方を伝えら、女性組織間のを深めた。同JA生活福祉伊藤浩司課長は「きつかけに受講が女性部活動に興持ち、各女性組織



芋を掘り起こす児童

## 合同で芋掘り 児童ら笑顔に 鳥羽市の2小学校

【伊勢】鳥羽市立加茂小学校の3、4年生と同市立安楽島小学校1年生の計64人は10月中旬、JA伊勢鳥羽支店敷地内にある圃場(ほじょう)で芋掘りを体験した。

掘った芋は6月に児童らが植え付けたもので、「ぐにはるか」や同市で作られている芋し芋の原料となる「兼六」約300本。体験では鳥羽市やJA職員、地域住民なども協力した。体験した児童は「持って帰った芋はお菓子作りに使ったり、おは

あちゃんにも分けしあげたりしたい」と笑顔で話していた。学習体験は10年以上前から行っており、農業体験のない児童もいるため学びの場を作りたいたいの思いからJAが協力して始めたもの。同校の別学年でも田植えや稲刈り、野菜作りなど1年を通して学習している。

## 三重信連

【三重信連】JAバンクは、より身近にJAバンクを利用してもらえよう、個人利用者向けにスマートフォンアプリ「JAバンクアプリ」を提供している。同アプリは、JAバ

ンクのキャッシュカードを持っていれば、スマホにダウンロードし、簡単な初期登録だけで、JAバンクの口座残高や入明細などを一括查看できる他、定期貯金、期積金などの満期金利などを、JA

## JAグループだより

### 全農みえ

【全農みえ】10、11月の「国産国産月間」に合わせ、JA全農が運営する産地直送通販

慢」からは、「牛」や「伊勢茶」61商品をついアする。同ショップ事務



武内さん親子に伊賀米を手渡す北川組合長(左)



を確認する上杉さん

ため、同市の農業は衰退の一途をたどり、農家としてのプライドを失いつつあったという。これではだめだ」と、上杉さんは地域の農家仲間と共に「四日市農業青少年ク

農業を継いだ、この出来事を機に『これからは農業で生きていく』という強い覚悟ができた」と上杉さんは振り返る。上杉さんは現在、ハウス約20坪での栽培に